

ホーム名：ヒューマンライフケア城東の湯グループホーム(モクレン)					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初よりその人らしく暮らせる事を大切にした独自の理念を掲げている。 申し送り時に、斉唱している。	当事業所開設当初の職員が考案した、4つの理念を玄関に掲示している。夕方16時の申し送りの際には、皆で理念を唱和して共有に努めている。	理念を唱和しながら日勤の職員は、1日の自分の仕事振りを顧みて、又夜勤の職員は理念の実践に繋げて頂きたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加させて頂いている。町内会長から行事の案内をしていただいている。 買い物は歩いて行ける範囲で行っている。	運営推進会議では町内会長から行事の案内があり、餅つきや地蔵盆、町内会の集い等に参加している。日常的には近所のスーパーや、薬局に買い物に出掛けて、店の人と会話している。	会長からは「学童保育の子どもや、小学校の体験学習等を通じて、地域交流を進めては」との提案があったが、前向きに検討願いたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に活かしかれていない。地域貢献に至らず。 認知症ケア専門士のポスターを掲げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を参考に業務の改善や、向上に繋がる様に取り組んでいる。 防災等についても、地域の情報を頂いている。	運営推進会議は、町会長や家族、地域包括支援センター職員の参加を得て開催し事業所の理念や、行事の予定と取り組み状況について報告している。参加者からは地域交流を進める提案や、助言を得ている。	会議の参加者が少ないようである。各方面からの参加者により率直な意見を頂くことが、サービス向上に役立つので行政や民生委員、家族等に会議への参加を積極的に働きかけて頂きたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に地域支援センターの職員に参加してもらっている。	行政の関係各担当者とは、報告書類の提出や、区分変更など入居者の手続き代行等で協力関係を築いている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加して意見を述べている。	運営推進会議の議事録のみならず、自己評価及び外部評価結果も市に提出して、事業所のケアサービスへの取り組みを伝えて頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてスタッフ間で話し合いを持っている。家族様よりご希望(ベット柵)があるが代換えがないか常に検討している。玄関の開錠に関しては家族様からの反対もある。各ユニットの行き来は自由である。	ベットを柵で囲む事は、本人の行動を制限するので、現在は使用を止めている。4本柵の代替案として、歩行状態の不安定な入居者に対しては、夜間は床に布団を敷いて就寝して貰うことで転倒を防いでいる。家族の要望により玄関は電子鍵をしている。	工夫により、ベット柵を使用しないで転倒を未然に防止出来ている。又、防犯上の問題から玄関に施錠しているが、見守りにより可能な限り自由な暮らしの実現にご努力願いたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待であるか日頃から話し合いを持っている。ケアカンファレンスで職員に周知している。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については家族様対応にて行われている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をとり入居者様や家族様の不安を取り除く様に努めている。 入居されある程度慣れてから次の方に入居して頂いている。		
10	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。 運営推進会議に出席して頂き、要望や助言を頂いている。 家族様と積極的にコミュニケーションを取る事を心がけている。	面会時や電話、運営推進会議等で意見や要望を聴き、外食や外出の要望は順次実施している。 面会に来られない家族には、2～3カ月に1回、「日々のご様子」を書面で送ったり、電話で様子を伝えている。	家族は、管理者が夜間の受診に付き添ったり、2人介助での外食支援等に感謝している。出来れば今年度から写真掲載の「ホーム便り」を発行して、本人の笑顔やホームでの暮らし振りを家族に届けて欲しい。
11	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	定期的に個人面談を行い、意見を聞いている。スタッフミーティングで意見や提案を確認し改善するよう取り組んでいる。	3カ月に1回個人面談を行い、意見の聴取と交換を行っている。月1回の全員参加によるスタッフミーティングでは、担当スタッフが行事企画書を作成して、提出し実践している。	昨年までは非常勤職員が多かったが、現在は新卒の職員4名が加わり殆ど常勤職員となっている。研鑽を積み中軸的存在に成長されるよう期待している。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則をスタッフの目にする場所に置いている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。社内の研修をweb会議にて行っている。 介護技術の講習を行っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	じょあみつネットに参加している。 当施設で月1回会議を行い認知症の方のケアについて話し合っている。1月は他施設にて60名ほどの参加者で勉強会を開催した。 また、他施設においてのつどいに参加し、家族会代表の方、サポート医、認知症連携担当の方の意見を聞く機会をもっている		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と接し利用者から要望等が聞かれない場合は家族様から話を聞く様にして、利用者の気持ちを受け止めていくように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族様の思いの違いやこれまでの関係を理解し、受け止められるよう利用者だけではなく家族とも信頼関係を築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要求事項に応えられる能力をホームが有しているのかの確認を行い、他サービス利用も含めて検討し対応に努める。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般などできる事は職員と共に行き、積極的に生活を送って頂けるようにしている。その人に合わせたケアを行っている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疑問や要望があれば気兼ねなくおっしゃって頂ける関係作りに努め、家族様にもできる範囲での協力をお願いしている。家族様より協力の申し出もある。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されたことで今までの関係が途切れる事のないよう出来る限りの支援を行っている。今まで行っていたスーパーや商店街へ行っている。	入居者が、かつて住んでいた自宅近くのスーパーや、商店街で買い物や会話をしたり、敬老会や納涼祭には家族を招待してクイズや歌を共に楽しんでいる。介護タクシーで大阪城で銀杏拾いや、石切神社等にも出かけている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに仲良く暮らせる様に、その場の雰囲気に応じてなじみの関係になれるように支援している。利用者同士の関わりを重要視し、職員は見守りの形で関わっていくようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や要望があれば出来る限りの協力支援を行う。退去された方への訪問や、相談できる関係を築いている。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常時希望や意向を開けるようにしている。ご本人が何を望まれているか分からない時は家族様にも話を聞いている。 今後の事についても何人かの方と話をしている。	入浴介助や、就寝介助など1対1になれる時に、本人の希望や要望が開けている。聞き取った内容は管理日誌に記録し朝夕の申し送り時に口頭で伝達し、希望に添うよう努力している。	本人の希望や要望は介護計画にもニーズとして記録され、それを実現するための目標が設定されている。今後共理念である「安心と満足の提供」実現に邁進して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	利用者との会話やご家族からの聞き取り等で得た情報を活かし対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する能力を把握し、職員間で情報を共有するように努めている。 可能な方にはお買い物について行って頂く等外出の機会を多くしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット合同で申し送りを行い利用者の変化に対しての情報の共有を図っている。 定期的にカンファレンスを行い、利用者だけでなく家族の思いも反映できるよう取り組んでいる。	本人の日々の状態を記録した、モニタリングチェック表に基づき、本人、家族、担当医と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。糖尿病や歯周病、高血圧等各人の持病に応じて、病状の悪化防止、維持改善に繋がるようなサービス内容を記述している。	本人や家族の意向に基づく援助方針と、本人の体調に応じた木目細かな目標を設定し、それを実現するためのサービス内容を記している。「糖尿病の人は、米飯150gで少なめの盛り付け」等健康維持に配慮している。継続を願う。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人経過記録を残し状況を把握している。日々の記録を元に情報の共有化を図り介護計画の見直しに活かしている。 モニタリングを毎日全スタッフが記入している。通院の際に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズについては出来る範囲で対応をしているが問題点も多い。 臨機応変に対応できるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分な協力関係が結べていない部分も多い。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診は月2回の人と週1回の人がいる。希望者には歯科往診、訪問マッサージがある。他科受診に関しては家族様の協力がある。医療機関への情報提供は随時行っている。	持病のある方には症状に合わせて往診がある。今までのかかりつけ医院を希望される方にはその要望に沿うようにしている。 タクシーの手配は事業所で行うが、緊急時を除いて付き添いは基本的に家族がする。24時間提携医院と連絡が取れる関係が築かれている。	往診ファイルを整備し家族や医師との連絡をスムーズにし、床ずれ予防等、症状に合わせた行き届いた介助を今後も続けていきたい。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	24時間相談できる関係が築かれている。往診日とは違う日でも訪問して頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、定期的に病院に訪問し利用者との関わりが切れないようにしている。病院関係者や家族様との情報を共有する事で退院時の受け入れがスムーズに行くように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針については職員でグループワークしている。家族様には個別に思いを確認している。職員の意識や技術、家族様の協力を得てターミナルケアを行っている。	現在まで、事業所での看取りはないが家族の思いをその都度確認し、文章化した上で、ターミナルケアの状態に入っている入居者もおられる。入居者が安心して終の棲家と思えるような環境作りに向けて努力している。	ターミナルケアに関しては本人や家族との思いの確認と共有が非常に大事であるが、それを職員全員が周知されるよう今後も日々話し合いを重ねられたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてはマニュアルで確認できるようにしている。入職時に職員に指導している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のディサービスを含めた建物全体の防災訓練を消防署より来て頂いて実地訓練を年2回行っている。	木造平屋建てで、広いテラスをはさんで2ユニットの居間が向かい合っている。年に2回の防災訓練のうち1回は消防署が立会い、1回は自主訓練となっている。スプリンクラーも設置済である。広域避難場所は天王田公園で、避難時の地域との協力体制が出来ている。	自力で動けない人の緊急時の避難は想定以上の危険な問題点が生じるという事を確認し合い、訓練においても様々な設定を考えながら実施されたい。職員全員が緊急時の連絡方法、救助方法について理解し、また動けるように、日頃も確認しあい、小規模な訓練を年2回の大掛かりな訓練以外に取り入れていただきたい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを尊重している。普段の言葉掛けやトイレ誘導の声掛けについて職員間で統一した声掛けを行っている。	月一度、イベント時に勉強会を開催しプライバシーの尊重に関しても確認し合っている。個人情報保護に関しては本部により年一回チェックテストが行われる。トイレ誘導の際の大声での呼びかけへの配慮など日常的に入居者の立場に立って心配り	入居者の表情が明るく、一人ひとりの思いをできるだけ汲むように努力されている職員の思いが感じられた。先輩職員から受け継がれてきたこの事業所の思いなのであろうと推察される。認知症の進行とともに出来ることに変化が出てくる中で今後も
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るような声かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ無理強いしないようにしている。利用者の希望に添えるよう家族様にも協力を仰いでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容が来る。化粧に関しては介護計画書にも記載し、声かけを行っている。不定期で職員によるエステを行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の状態を把握し、食器拭き等出来る事は手伝って頂いている。毎月何かしらのイベントを企画しメニューを決めて頂いたり、買物を職員と共にやって頂いている。	業者から下ごしらえした材料が届き、その中で職員が工夫して作っている。職員も一緒にテーブルにつき食べるので家庭的な雰囲気になっている。朝食は、入居者に選択の楽しみを持ってもらうように和食と洋食を用意している。	食事の準備や後片付け等、入居者のできることはどんどん手伝ってもらっている。食事中も活発におしゃべりが聞かれる。事業所にいても家のように何らかの自分の役割を持てるような支援はとても評価できる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	水分チェック表を確認している。食が細い方には適宜補食を提供している。個人ごとに体重測定を毎日、週1回、月1回で行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。訪問歯科より助言がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し毎回のチェックを行っている。	昼間はリハビリパンツで、夜間のみ熟睡できるように紙おむつの方など一人ひとりに合わせた介助を行っている。中には自立排泄に向かって多少でも変化の出ている方もおられる。現在は食欲も旺盛で排便も心配のない人が多い。	「お散歩しましょうか？」というトイレとは別の声掛けでプライドを傷つけることのないように、さりげなく誘導する等が自立支援に反映されている。排泄を人に頼りたくないというのは誰もの願いである。認知症の症状の中でもできるだけ自立を保てるようこれからも支えてもらいたい
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや、下剤をなるべく使用しないようおやつ等にも気を付けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めずなるべく1日置きの入浴を促している。毎日入浴される方もいる。拒否や入浴できない際は足浴や清拭を行っている。希望者は夜間入浴を行っている。	毎日入浴する人もいるが、大体一日おきには入っている。夜間、日中を希望する人には出来るだけ合わせるようにしている。現在機械浴を必要とする人はいないが、将来的にその機会がでてくれば併設しているデイサービスの機械浴を利用する。	今後、入浴を億劫に思う入居者も出てくるかもしれないが、体調に合わせて入浴介助を行うことにより心身共にリラックスできるように、あたたかい支援を続けられたい。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は特に決めておらず、生活習慣や状況に応じ気持ちよく睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	チェック表を利用し服薬ミスがないように複数のスタッフで確認しながら配薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の状態を把握し、それぞれに応じた役割をお願いして負担のないよう楽しく過ごして頂けるよう支援している。ユニットにとらわれず自由に行き来して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出できる方が多いので、お買い物に付いて行って頂いたり、散歩に行ったりしている。外食企画や、地域のお祭り参加等もしている。	近くにできたスーパーや昔からの商店街があるので一緒に買い物や水汲みに行く機会がある。1対1の介助が必要なためそれぞれの入居者にとっての日常的な外出回数はあまり多くないが介護タクシーを利用しての外出を行ったり広くて明るいテラスでの日向ぼっこなどで外気に触	これから季節も春になり、戸外で過ごしやすくなる時期なので近所の散歩や買い物に行く回数を増やすように務められたい。テラスが非常に気持ちよく、ベンチもあるので入居者同士の交流にもなっている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持で安心される方にはご家族の理解のもとご自身で管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時にいつでもかけられるよう支援している。携帯電話を使用している方には操作時介助している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間が作れるように季節ごとに模様替えを利用者と共に行っている。	広くて、明るく暖かい居間兼食堂で、コーナーにはベッド、ソファ、炬燵、大画面のテレビが設置されている。入居者は思い思いに寛いだり、調理の手伝いや食器拭きや掃除など自分でできることをされていた。窓越しにテラスを挟んでコスモスの居間が見え入居者同士の交流も自由に行われている。	広く、日あたりの良い居間には入居者の元気なおしゃべりや職員の明るく楽しい声が溢れていた。これからも入居者が日々穏やかに安心して生活できるよう、笑顔と心のこもった介護を期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の施錠をしていないので思い思いの場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活を継続して頂ける様なるべくご自宅で使っていた家具を持ち込んで頂いている。宿泊できる部屋は用意していないが布団は貸し出しできる。	出来るだけ入居者や家族の要望に合わせて家具を持ち込めるようにしている。ベッド、車椅子は持ち込み又はレンタルとなっている。仏壇を置いて職員と一緒に水を供えている居室も見られた。	家具や写真、馴染みの物が置いてあり自分の家のように和める雰囲気のある居室もあるが、ご家族の考えとは思われるが殺風景な居室も見られた。諸事情があると推察されるが好きなものに囲まれて暮らせるように家族に提案してその人らしい部屋作りを応援されるよう期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考えて制限させて頂く事もあるが、基本的にはご本人のペースを大事にして過ごせる様支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない